

裏路地探険

鉱夫の町として栄えた生野鉱山・奥銀谷地区
坑口や淘り池など、貴重な鉱山遺構が残る
歴史に想いを馳せながら、鉱山町を散策しよう

■ 鉱山町を歩く／朝来市生野町奥銀谷地区

開坑1200年を誇る朝来市・生野鉱山。史跡「生野銀山」方面へ、国道を少し行くと、探検場所である新町・奥銀谷地区がある。町の歴史は古く、『銀山旧記』という古文書の慶長5年(1600)のくだりには、「谷の狭い所へ京・大坂より商人が集まり、寸分の土地を争い軒を連ねて居住し、すべて板葺き・瓦葺きで、藁葺きなどなかった」と記されている。

周辺は江戸時代に隆盛を誇った大盛山を始め、数々の鉱脈が開発され、鉱山に従事する人々が移り住み、町は急速に繁栄していった。「口銀谷」が役人や商人が住む商業地だったのに対して、「奥銀谷」



うだつを掲げた白壁、格子窓の旧家。古くから酒造業を営んでいた。周辺には、山師といわれる鉱山経営者たちも住んでいた。



市川に点在する「淘り池」跡。洗物師という女性たちは、この穴に溜まった石くずを選別して、少しでも生活の足しになるよう精錬所に売っていたという。江戸時代、鑑札を持った人が約60人ほどいたといわれ、税金も納めなければならなかった。



本来寺境内のお堂に祀られた山神の本尊・毘沙門天像。鉱山の繁栄を願い、山師たちが篤く信仰していた。



人用寺に付む「十六羅漢」。容姿がそれぞれに異なり、野仏の表情は豊か。常に命の危険にさらされた鉱山で働く人々が、延命を誓ったという。境内には作家・立花和平氏の寄贈による「隠籠の鐘」や小説の一節を刻んだ石碑が建立されている。



明治時代、鉱山開発に尽力したフランス人技師たちが母国から持ち寄ったアカシアの木が育つ中「次の百年はマロニエで」という佐藤さんの提案で植えられた。縁あって東京・赤坂の秩父宮邸から移植されたもので、屋敷から運び出される際、トラックのバックミラーには妃殿下の姿が口まで映っていたというエピソードが残る。

は鉱夫の町として栄えた。明治29年、三菱合資会社の経営になると、市川沿いに社宅が建てられ、さらに人口が増えていった。最盛期の昭和20〜30年代、奥銀谷小学校は朝来郡一の児童数(約800人)を誇ったという。町を歩くと、所々に鉱山町の面影が残っている。入り口にあたる新町区から旧道を入ると、なだかな上り坂が続く。ここはかつて「坂町」と呼ばれていた場所。趣のある格子戸、古い佇まいを見せる民家が点在する。新町はその名の通り新しく開けた町で、鉱山が栄えるにつれて市川上流より家々が建ち並んでいった。坂を上りきった山側には、「桐ノ木稲荷」が鎮座する。この神社は、坑道採掘時の水抜き穴が貫通したことを祝い建立されたもので、本来は「切抜稲荷」と呼ぶのが正しいそう。山の斜面一帯には小さな坑道が数多くあり、冬には白い蒸気が何本も立ち上るのだという。本来寺・境内のお堂には、山神として祀られてきた「毘沙門天像」が安置されている。これは江戸時代、代官所から銀山の採掘権を与えられた山師(経営者)たちが

大浴場温泉入浴付

忘新年会はもうお済みですか?

温泉になりました

おだまり温泉 (アルカリ性単純温泉)

「T2を見た!」の一言で(1泊朝食) 通常プラス6,000円が 平日5,000円に!

お食事処

大自然に囲まれた宿で 気の合う仲間と...

■ ひだまり自慢会席 6,000円 (お1人様料金+サ税込)

・プランはこの他にもございます。詳しくはお問い合わせください。 ※休前日宿泊はプラス9,000円、年末年始は特別料金となります。 人数・ご予算・宴会場等ご相談に応じます。

至豊岡市街 至久美浜

兵庫豊岡市小島1188-8
TEL.0796-29-6009 FAX.0796-29-6019
http://www.s-hidamari.com/

●裏路地探検隊員募集

平成21年1月17日(土)

「漁師町・居組を歩く」新温泉町

*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付致します。



市川の対岸沿いには、鉱石を運んだトロッコの軌道跡が残る。山の斜面には坑口が点在している。



市川河川公園にあるカラミ石。銅などを精錬する際にできるカスを再利用したもの。



鉱山施設の動力用として、明治9年に築造された送水路跡。旧鉱山本部まで続いていた。



江戸時代の坑道跡で、もちろん手掘りによるもの。



下帯の岩肌には、何故か剣が彫られている!?



守つてきたもの。当時、約5000もの坑道があり、それぞれに山師が存在し、山神を祀つてきたという。小学校の隣にある「大用寺」は、市指定文化財の「十六羅漢」で有名な古刹。作家・立松和平氏と縁の深い寺としても知られている。

立松氏の曾祖父である片山市右エ門は、生野でも腕利きの鉱夫だった人物。曾祖父をモデルにした小説『恩龍の谷』は、当寺に片山家の墓が残つていたことを知って執筆したものだ。明治初めの生野銀山、足尾銅山を舞台にした鉱夫たちの生き様が描かれている。

市川の河原に点在する不思議なくぼみも、鉱山の遺構物。人為的に掘られた穴は、かつての湧り池の跡だ。法物師という女性が上流から流れてきた石くずをこの水たまりで木鉢にかけて選別し、生活の足しに売っていたという。「子供の頃、くぼみに溜まった砂を振るうと古銭が見つかったものだ」と、案内役の佐藤さんが教えてくれた。

生野鉱山とともに生きた人々の息吹が聞こえてくる奥銀谷。歴史に想いを馳せて通りを歩くと、鉱山で働く人たちの生き生きとした表情が浮かんでくるようだ。

猫崎半島(兵庫県豊岡市竹野町)

パソコンで、身近な電話で、携帯電話で手軽にバンキング

たんぎん(インターネット)バンキング

たんぎん(テレホン)バンキング

たんぎん(モバイル)バンキング

詳しくは、たんぎんダイレクト営業センター(0120-164-230)までお問い合わせください。